

→ 小児がんの子どもたちを救おうと 全国から医療の専門家が結集しました



©かとーゆーこ

第 28 号  
発行日 2023 年 12 月 4 日  
NPO 法人  
日本小児がん研究グループ  
JCCG 発行

### GGSC2023特集号

広がる支援の金色 ✨ 全国69か所 🚶



Global  
Gold September  
Campaign



## ゴールドセプテナーキャンペーン 2023

JCCGは、ゴールドのライトアップで小児がんへの理解・支援を呼びかける世界的な啓発イベント「ゴールドセプテナーキャンペーン」(Global Gold September Campaign:GGSC)を9月に開催しました。北海道から沖縄まで全国69か所の名所にゴールドライトが灯り、各地では点灯式や啓発イベントも行われました。各地のライトアップやイベントの様子を本号と次号の2回に分けて紹介します。

### ひとりひとりの思いをのせて



沖縄：沖縄こどもホスピス予定地（うるま市）LEDキャンドル200個を10人で並べてライトアップ。この写真の部分には、約100個が使われています。【子ども応援団 笑びん、スマイルアクションinおきなわ】

今年は手作業によるあたたかい灯りも♪

ライトン  
Gold September  
公式キャラクター © 326



千葉：千葉ポートタワー（千葉市）千葉県こども病院、成田赤十字病院、千葉大学医学部附属病院で治療・入院中の子どもたちやご家族による手作りの灯ろう60個を連ねました。【認定NPO法人小児がんフロンティアーズ】



### 第 28 号のコンテンツ

#### ◆ゴールドセプテナーキャンペーン 2023

- ・ひとりひとりの思いをのせて
- ・みんなのゴールドセプテナー
- ・思いをつなげる



- ・2023 年メインイベント
- ・全国 69 か所のライトアップ
- ・プロスポーツの応援

#### ◆ご寄付のお願い

Gold September公式キャラクター





## なぜゴールド？ 小児がんの啓発カラー



病気に立ち向かい、厳しい治療を頑張っている子どもたちは金のように貴重な宝物だとの思いから「ゴールド」がシンボル色になりました。小児がんと向き合っている子どもたちと、彼らに必要な医療・ケアと研究に光を当てるとの意味と、子どもたちの未来が光り輝くようにとの願いもこめられています。

### 「みんなのゴールドセプテンバー」 NPO法人ホスピタルフットボール協会



みんなでゴールドセプテンバーキャン  
ペーン（GGSC）に参加できる  
アイデアも生まれました♪



ライトオン

### 「参加型GGSC」 病院にいる子どもたちに フラッシュライトでエール



SNS発信も

#### 大阪：MKタクシーフィールドエキスポ（吹田市） ～アメリカンフットボール競技場より～

9月1日、大阪大学医学部附属病院（以降阪大病院）から約3.5キロ、病院から眺めることもできるアメリカンフットボール専用競技場で、関西大学vs甲南大学（関西学生アメリカンフットボールリーグ）の試合が行われました。ハーフタイムに、NPO法人ホスピタルフットボール協会の糸賀享弥代表理事がスマートフォンのフラッシュライトを光らせる「みんなのゴールドセプテンバー」について説明。競技場の照明が落とされる中「近くにある阪大病院に入院している子どもたちに光のエールを送ってください」と呼びかけると、観客がそれぞれのスマートフォンを掲げ、ライトを大きく振りました。

阪大病院小児科の宮村能子医師は「皆さんからの多くの光や応援の言葉は感動的。治療中の子どもたちの勇気につながると思います」と感謝を述べました。



ホスピタルフットボール協会は、アメリカンフットボールを活用し、病気の子どもたちの支援をしています。



#### 大阪：大阪城 極楽橋（大阪市）

9月9日、大阪城の極楽橋での「みんなのゴールドセプテンバー」にはホスピタルフットボール協会や、フラッグフットボールチームのメンバー、小児がんについて学んだ大学生ら約40名が参加。大阪市立総合医療センターの仁谷千賀医師がGGSCについて説明し、皆で同病院に入院している子どもたちに光のエールを送りました。「ソーラーランタン」という、太陽光による充電で点灯できるランプ約100個のライトも橋を照らしました。

フラッシュライトの取り組みは他府県でも行われ（p10参照）、たくさんの応援の光が届いています。

### 「光らせるだけでいいの？」 …から生まれた

#### みんなのゴールドセプテンバー

昨年、ホスピタルフットボール協会の尾関泰輔さんがライトアップ企画を周囲の方に話した時、「それで何をすればいいの？」との返事もあったそうです。「大阪城が光って、天保山大観覧車が光って。ほかのイベントでも紫などに光っているよね」との率直な質問に、「確かにライトアップするだけでは意味がない。たくさんの方が参加でき、子どもたちの支援につながる仕組みはないか」と思案。フラッシュライトによるエールを思いつきました。

また、尾関さんは羽衣国際大学や大阪学院大学などで小児がんやGGSCについて講義を行い、学生らとコースマーケティング（商品・サービスの購入が社会貢献につながるビジネスモデルの手法）による小児がん支援も検討しました。

講義を受けた大学生は大阪城でのライトアップに参加し、撮影した動画のSNS発信にも協力。12月にはGGSCをテーマに考案したコース商品の発表を行う予定です。

## 2023年のキャンペーンテーマ



小児がんを知ることにつながろう！

～社会みんなで手を取りあって、がんと闘う子どもたち・家族の未来が輝くように～

思いをつなげる



弘前城



弘前大学医学部附属病院プレイルーム



同病院正面玄関



「みんなの思いをつなぎたい」と生まれたゴールドセプテンバーキャンペーンのキャラクター。ユニコーン（馬に似た伝説の生き物）とこぶた（子豚）のペアで**パットン**（馬豚）をつなぐよ。

### 青森：弘前城・弘前大学医学部附属病院（弘前市） ～つながったメッセージのバットン～

弘前大学医学部附属病院では、9月に入ると正面玄関にツリーを飾り、小児がんのお子さんたちを知ってもらうコーナーを設置。「もしよろしければメッセージを」と、とゴールドリボンで縁取られたハート型のカードも用意しました。

「私もがんをわずらっています。大丈夫だからいっしょにがんばろうね」、まだ字が書けないお子さんによる目と口が描かれたかわいらしい顔、平仮名で「なおるといいね」…。約50枚のカードはあっという間にメッセージで埋まったそうです。

9月23日の弘前城ライトアップにはコーナーの幕を持っていき、治療中の子どもたちやご家族、医師や看護師、看護学科教員らで記念撮影をしました。9月いっぱい玄関にあったツリーは病棟のプレイルームへ。今は入院中のお子さんやご家族が「このメッセージいいね」と、さまざまな方からの思いを受け取っておられるとのこと。

# 2023年メインイベント

## 復学支援について考える + ライトアップ中継

9月9日



~名古屋と横浜よりオンライン配信~

ONLINE



1. オープニング動画
2. トークセッション：「復学支援」

みんなに会いたい  
学びたい  
みんなといっしょに  
学校に行きたい

月 日 曜日 日直



3. ライトアップ中継
4. 応援メッセージ動画

### 1. オープニング動画



ガンバ大阪：半田 陸選手

ガンバ大阪では小児がんをわすらった子どもたちを応援しているゴールドセプテンバーキャンペーンの認知をひろげるため協力しています。子どもたちの笑顔をつくりましょう。



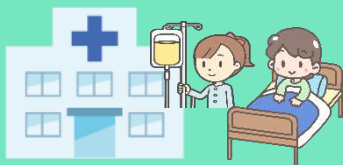
歌手：郷 ひろみさん

学校に行きたくても行けない子どもたち、友だちに会いたくても会えない子どもたちが、一日でも早くもとの生活に戻れるよう心から願っています。

ゴールドセプテンバーキャンペーンをご存知ですか？一人でも多くの子どもたちが笑顔になれるよう、この活動を知ってください。



ガンバ大阪：食野 亮太郎選手



### 2. トークセッション：「復学支援」



#### ◆ 医師もコミュニケーションに加わる

**岡田恵子医師**（大阪市立総合医療センター小児科。同病院には復学サポートチームがある）「退院する患者さんと受け入れる学校側との垣根を取り払ったり、誤解を解いたりするために、『こういうことだけ気をつけていただけたら』と医療者がポイントを伝えることも大切なのは」

#### ◆ お互いの不安を話し合っ

**中村さん**（お子さんが幼稚園年長で脳腫瘍発症、小学1年生10月で復学を経験し現在小学5年生）「復学時、校長先生の『400名以上が活発に活動する学校でいかに安全に過ごすのが課題』との言葉が印象に残っている。10か月間の入院生活では病院外での生活に不安を覚えた。学校も親もそれぞれ不安を抱えているため、各々の不安の情報共有が大事だと思う」

#### ◆ その子の未来と今できることを考える

**山中裕加里教諭**（長岡京市立長岡第七小学校。前任校で中村さんのお子さんを担任）「将来目の前のお子さんがどのように成長していくのか、どんな風に社会復帰していくのか、ということを考え、じゃあ今何に優先的に取り組むのか、どんな力をつけていってほしいのかということを学校側として考えていく必要がある」

ぷくぷくぼーん：大竹由美子さん、国立成育医療研究センター小児がんセンター長の松本公一医師がコーディネーターを務めました。



### 3. 全国ライトアップ中継 ～子どもたちやご家族を元気づける光に～



神奈川 マリンタワー

#### 横浜のシンボルタワー、神奈川 17か所のシンボルとしても

神奈川：横浜マリンタワー（横浜市）

神奈川県では全国最多となる17か所でのゴールドライトアップが実現。横浜市立大学附属病院小児科の柴徳生医師が、治療中の子どもたちの笑顔を願い、ご子息と中継に参加しました。横浜マリンタワーが横浜港のシンボルとして親しまれていることを伝え、病気の子のきょうだいの気持持ちがえがかれた絵本「ぼくはチョココロネやさん」も紹介しました。



#### 医療ともご縁の深い出雲大社

島根：出雲大社（出雲市）

出雲大社では子どもたちも多く参加する中、神職石村智哉さんが「出雲大社がおまつりする『だいこく様』は『因幡の白うさぎ』で知られるうさぎを治してくれた医療・医薬の神様でもある」と紹介。2013年の修造で本殿に使用された木材は、島根大学医学部附属病院でも使用されているとご縁もあるそうです。



出雲大社

おそろいのTシャツ（島根大学総合理工学部学生のデザイン）姿の子どもたちと出雲大社神職石村さん（右）

#### 千葉ポートタワーの灯りをみんなでパワーアップ

千葉：千葉ポートタワー（千葉市）

子どもたちやご家族、治療する病院の医師、支援団体メンバー、千葉市職員ら約50名が集まった千葉ポートタワー。「建物の光をさらにパワーアップして届けよう」と、子どもたちはペットボトルで作った灯ろうを持って参加してくれました。LEDライトで光るしくみの灯ろうは、イベント後に各病院に届けられました。



千葉ポートタワー

#### 荘厳佐渡金山。佐渡市長も応援メッセージ

新潟：佐渡金山北沢浮遊選鉱場（佐渡市）

子どもたちや医師との佐渡金山ツアーを企画したハートリンク共済ワーキングプロジェクトの林三枝副理事長が「小児がん経験後の就労も支援している」と話し、金山を擁する佐渡の渡辺竜五市長は「お互いのゴールドをかけ合わせ、子どもたちやご家族を応援し、いっしょにがんばっていきましょう」と力強く語りました。



渡辺竜五  
佐渡市長



新潟 佐渡金山北沢浮遊選鉱場  
右からハートリンク共済ワーキングプロジェクト林副理事長、新潟大大学院小児外科の木下義晶医師

愛知：中部電力 MIRAI TOWER（名古屋市）



ぶくぶくぼーん大竹由美子

大竹由美子さん

#### 発信基地は名古屋と横浜

今年はメインイベントトークセッションを名古屋から「ぶくぶくぼーん」が担い、大竹由美子さんが進行役を務めました。中継セッションは横浜より「旭くん 光のプロジェクト」が担当。江村美紀さんが進行し、声優を目指す高校生松崎兵庫さんが絵本を朗読しました。

神奈川：横浜こどもホスピス うみとそらのおうち（横浜市）



松崎兵庫さん

特定非営利活動法人

ぶくぶくぼーん



特定非営利活動法人

ぶくぶくぼーん：パルーンを使った遊びのボランティア活動を行う（愛知）



一般社団法人

旭くん 光のプロジェクト：医療・音楽・教育を通じて子どもの幸せをサポート（神奈川）

アーカイブはこちら！



# 全国69か所のライトアップ！！

今年2023年  
⇒69か所

初開催2021年  
⇒15か所

昨年2022年  
⇒38か所



小児がんへのご理解ご支援を呼びかける  
ゴールドライトアップが広がってきました。  
美しい光と、各地域の皆さんそれぞれの  
思いをお届けします。



皆様のご協力に深く  
感謝申し上げます。



## 北海道



### 9/29 さっぽろテレビ塔

協力：北海道大学病院、公益財団法人  
がんの子どもを守る会北海道支部



♥9/29～10/1に札幌で開催  
された「日本小児血液・がん学会  
学術集会」に合わせて点灯、多くの医  
療関係者がよりよい治療への気持ち  
を新たにしました。

## 宮城



### 9/4～10 仙台スカイキャンドル

協力：株式会社仙台放送、  
宮城県立こども病院

## 埼玉



### 9/11 さいたまスーパーアリーナ



### 9/25 埼玉スタジアム2002

協力：埼玉県立小児医療センター

## 青森



### 9/23 弘前城

協力：弘前大学医学部附属病院、  
小児科子ども・家族の会「ういず」、青森県  
小児がんの子ども・家族のサポーター「ともし  
びプラス」、弘前市 (p2)

## 福島



### 9/8～10 東北電力福島支店電波塔

協賛：福島県難病支援補助金  
協力：福島県立医科大学附属病院、  
がんの子どもを守る会福島支部

♥8/26、コラッセふくしまにて小児がん  
をテーマにした市民公開講座を開催

## 千葉



### 9/3～9 千葉ポートタワー

協賛：認定NPO法人ミルフィーユ  
小児がんフロンティアーズ、(公財)  
ちば国際コンベンションビューロー、千  
葉県こども病院、千葉大学附属病  
院、成田赤十字病院 (P1,5)

## バラエティに富んだ東京のゴールド！

キャンペーンのシンボルとして、今年も 634 メートル全身がゴールドに輝いた東京スカイツリー®。初の試みとして、夜空に打ちあがるスターメインでメッセージを届けた調布花火。建物の外壁計 12 個のライトが灯った調布市文化会館たづくり。エントランスが優しい金色に照らされた東京都立小児総合医療センター。独創性ある東京それぞれの光を味わってください。



東京

3年連続  
シンボリック存在



9/9 東京スカイツリー®

協力：東武タワースカイツリー株式会社

♥東京スカイツリーのゴールドは、「360度どこから見てもあたたかい金色に見えるように」とデザインされた特別な光です。「ぬくもりのある美しさに見とれ、うつむかず、前向きに過ごしたいと思いました」などの声が寄せられました。



4年ぶり開催の花火大会  
ゴールドのスターメインで啓発



9/24 調布花火

協賛：アフラック生命保険株式会社  
協力：調布市花火実行委員会



9/8~21 調布市文化会館たづくり

協力：アフラック生命保険株式会社、調布市

♥調布市は2010年にアフラック生命保険株式会社とがん啓発等に連携して取り組む協定を締結、小児がん経験者・がん遺児奨学金制度のための街頭募金なども行っています。



9/8~14 東京都立小児総合医療センター



神奈川

## 神奈川県内 17 か所。高校生による啓発も！

神奈川県では 17 か所でライトアップされました。いちはやくゴールドが根付いた同県では、小児がんを経験し、投薬治療を続けている高校生による手作りの啓発活動も行われました。



神奈川県と横浜市（市庁舎～p8 象の鼻パーク）のご協力によるライトアップです。



9/4~9 神奈川県庁舎



9/4~9 横浜市庁舎



9/4~9 マリントワー (p5)

協力：リストプロパティーズ株式会社、横浜市

神奈川



### みなとみらい21地区もゴールドに



9/4~9 横浜ハンマーヘッド  
協力：新港ふ頭客船ターミナル株式会社



9/4~9 アニヴェルセルみなとみらい横浜  
横浜コスモワールド大観覧車「コスモクロック21」、  
協力：泉陽興行株式会社



9/4~9 象の鼻パーク



### 高校学園祭でも「ゴールドの意味を知って」



9/17~18  
聖ヨゼフ学園高等学校（横浜市）  
学園祭「ヨゼフ祭」のブース

♥小児がんを経験し投薬治療中の柴島四郎さん（高校1年生）が、高校の仲間と共に「ゴールドライトアップ in ヨゼフ」コーナーを設置。金色の折り紙を使った手作りの建物や小児がんの説明ボードで理解を呼びかけました。



### 仲間の思いをつなぐ ~湘南ベルマーレ~



9/2~3 江の島シーキャンドル  
協力：江ノ島電鉄株式会社



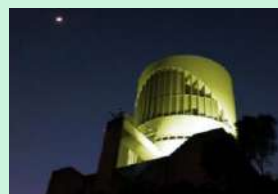
9/2~4 小田原城 協力：小田原市



9/1~18 平塚駅南口広場人魚噴水公園  
協力：平塚市



9/8~10 秦野市戸川公園  
協力：秦野市



9/4~9 松田山ハープ館 協力：松田町



9/1~2 大船観音寺

♥この6か所のライトアップは、湘南ベルマーレフットサルクラブのプレイヤーで、自身もがんとの闘病をしながら小児がんの患者さんやご家族をサポートする「フットサルリボン」活動を続けていた久光重貴選手（2020年12月に39歳で逝去）の思いを継ぐイベント「ヒサと共に。2023」の一環として実現しました。



久光 重貴選手



## 神奈川

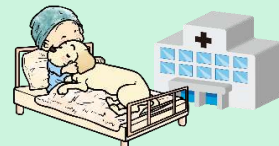
メインイベント中継地



9/9 横浜子どもホスピスうみとそらのおうち (p5)  
協賛：FAHome Sound&Lights  
協力：一般社団法人旭くん光のプロジェクト



9/8～14 神奈川県立子ども医療センター  
左から血液腫瘍科柳町昌克医師、ファシリテイドッグ「アニー」、黒田達夫総長、後藤裕明病院長



### 「ファシリテイドッグ」

(facility = 施設・機関)

医療チームの一員として病院（施設）で勤務する、専門的に訓練された犬のこと。子どもたちが治療に向き合うサポートをしています。

アニーは2018年から県立子ども医療センターで活躍中です。

## 長野



9/9～10 松本城

協力：アフラック生命保険株式会社、松本市



9/9～10 善光寺

協力：アフラック生命保険株式会社、長野市

## 新潟



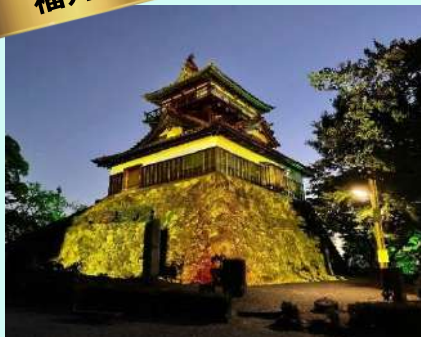
9/9～15 佐渡金山北沢浮遊選鉱場

協賛：ハートリンク共済  
協力：新潟大学医歯学総合病院、佐渡市、ALSOK佐渡支社 (p5)



歴史的建造物もずらり

## 福井



9/1～10 丸岡城

協力：早稲田大学ビジネススクール（早稲田大学大学院経営管理研究科）、特定非営利活動法人キャンサーネットジャパン（CNJ）、坂井市

## 京都



9/1～30 東寺（教王護国寺）

協賛：一般財団法人 京都仏教会  
協力：京都府立医科大学附属病院 京阪ホテルズ&リゾート株式会社

## 滋賀



9/9～11 彦根城

協力：公益財団法人 がんの子どもを守る会、彦根薬剤師会、彦根市



♥ 京都仏教会の働きかけにより、東寺境内と京都タワーでは、小児がん啓発ポスターの掲示とチラシ配布にご協力いただきました。

参加型GGSC ♥ 「みんなのゴールドセプテンバー」



NPO法人ホスピタルフットボール協会 プレゼンツ

京都・大阪・兵庫では、NPO法人ホスピタルフットボール協会が考案した、フラッシュライトによるエールが広がりました（p2参照）。このページのライトアップすべてにホスピタルフットボール協会が協力しています。



京都



9/10 海燕（宮津市島崎公園内モニユメント） 協力：NPO法人Sports Club RAINBOW「みんなのGGSC」

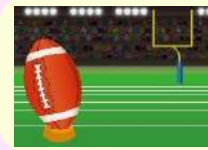
大阪



9/30 天保山大観覧車  
協力：泉陽興業株式会社  
フラッグフットボールの競技会後に天保山公園にて「みんなのGGSC」



9/9 大阪城  
協力：大阪学院大学、羽衣国際大学、大阪国際大学など（p2）  
大学生らと「みんなのGGSC」



9/1~3 太陽の塔  
協賛：一般社団法人関西学生アメリカンフットボール協会、協力：大阪府 MKタクシーフィールドエキスポで開催される関西学生アメリカンフットボールの試合日程に合わせて点灯（p2）  
ハーフタイムに「みんなのGGSC」



9/9 阪神高速道路 橋脚  
協力：阪神高速道路株式会社



9/9 関西電力本社  
協力：関西電力株式会社



9/5~30 中之島ガーデンブリッジ  
協力：大阪市



9/2 一心寺シアター  
協力：一心寺文化事業財団  
絵本の読み聞かせイベント後に「みんなのGGSC」

兵庫



9/16~17 神戸市庁舎 1号館  
協力：特定非営利活動法人 Homika

9/16の保育フェス後、幼児教育関係者らで「みんなのGGSC」



9/17 メリケンパーク  
「笑顔」「元気」「応援する気持ち」のチアスピリットで「みんなのGGSC」

♥メリケンパークからは兵庫県立こども病院へ、兵庫県立尼崎小田高等学校からは尼崎総合医療センターへ向けて、「みんなのゴールドセプテンバー」の光が放たれました。



9/21 県立尼崎小田高等学校  
高校生・教員らによる「みんなのGGSC」

## メインイベント中継地



愛知



### 9/9 中部電力MIRAI TOWER オアシス21 水の宇宙船

協賛：円銘建設(株)、かとう小児科・内科クリニック、ひだかこどもクリニック、ひふみコーチ(株)、三品雅義税理士事務所

協力：NPO法人ぷくぷくばーん、名古屋テレビ塔株式会社、栄公園振興株式会社、株式会社ハートウィング、(社)ラン・フォー・ピース普及協会 (p4、5)

徳島



### 9/25~29 徳島県庁舎

香川



### 9/6~10 高松シンボルタワー

協力：香川大学医学部附属病院、四国こどもとおとなの医療センター

愛媛



### 9/8~9 大洲城 協力：大洲市



### 9/6~12 愛媛県庁



### 9/8~9 愛媛大学医学部附属病院

その他協力：愛媛県立中央病院、松山赤十字病院、今治市医師会市民病院  
NPO法人う・ファミリィ、がんの子どもを守る会愛媛支部

♥愛媛県立中央病院では、治療後の社会復帰や療養中の学習支援についての市民公開講座が開催されました。



### 9/4~10 石手寺

協力：四国八十八カ所51番石手寺



### 9/8~9 松山市総合福祉センター

協力：松山市

広島



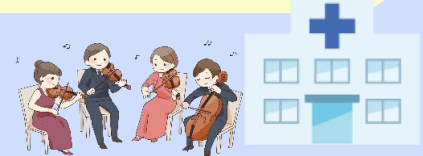
### 9/7~13 広島城 協賛：株式会社 村上農園

協力：広島大学病院、広島県、広島市

### 広島城と病院をつないでどちらも楽しく！

♥9月7日、広島城の点灯式には広島大学病院で治療を受けた子どもたちや家族らが参加。子どもたちのかけ声を合図に5層の城が金色に浮かび上がりました。

この日、院内小児病棟では弦楽四重奏のミニコンサートが開催されました。現地と病棟をオンラインでつなぎ、幻想的な点灯も、美しい音楽も、分かち合えるイベントとなりました。



島根

建築デザイン学科とのコラボレーション

今年も！



医学部附属病院  
小児科

総合理工学部  
建築デザイン学科

昨年が続いて島根大学では総合理工学部建築デザイン学科の学生がGGSCに協力しました。

島根大学医学部附属病院で治療中の子どもが描いた絵を中央に配し、全体が笑顔に見えるようにデザインしたTシャツを作成。松江城ではおそろいのTシャツ姿でチラシを配布し、小児がん治療の重要性を訴えました。



9/9～10 松江城

～同学科3年 溝下 藍花さん・三谷 咲樹さんの感想～

小児がんについて知ってもらい、小児がんの子どもたちとそのご家族の想いを一緒に伝えたいという思いでデザインに取り組みました。病院の子どもたちが描いてくれた素敵なイラストが、パワフルで温かいデザインのTシャツとなり喜んでいました。また、当日松江城に訪れた人が関心を持って足を止めてくれたことが嬉しかったです。デザインにつながる人の想い、感情を一番に大切にする必要があるという面では、普段大学で学ぶ建築の課題設計と共通していると思いました。このキャンペーンに関わることができて本当によかったです。



9/9～10 島根県立しまね海洋館アクアス



9/9 出雲大社 (p5)



9/9 日御碕灯台

島根のライトアップ

協力：島根県、松江市、島根大学総合理工学部建築デザイン学科、島根大学医学部附属病院

岡山



9/16 岡山城

協力：岡山大学病院、岡山医療センター、倉敷中央病院、岡山県、岡山市

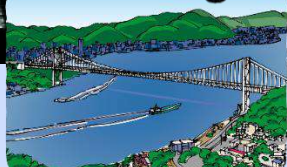
山口



9/9 海峡ゆめタワー

協力：山口大学医学部附属病院 一般財団法人山口県国際総合センター

海峡ゆめタワーからは北九州市が一望できるよ ♪



福岡

小児がんを知ってもらう取り組み 工夫しながらこれからも



9/1~21 博多ポートタワー



9/1~21 福岡市総合体育館



小児がん経験者のための支援団体

にこスマ九州

レモネードスタンド



9/3 レモネードスタンドinふくおか JR博多駅前広場



9/9 レモネードスタンドin北九州 小倉城前

♥「広げよう笑顔の輪」を合言葉に小児がん経験者を支援する団体のにこスマ九州は、JR博多駅前広場と小倉城でレモネードスタンドを開催しました。

～にこスマ九州 井本圭祐さんのコメント～

小倉城のゴールドライトアップは3年目になりました。Instagramの投稿数が年々増えていて、小児がん啓発の一端となっている手応えを感じています。レモネードスタンドでは、小児を専門としていない医療スタッフの方が足をとめてじっくりと話を聞いてくださったりしました。一方で、まだゴールドが小児がん啓発カラーだとご存知ない方がほとんどです。「ゴールド」が冠につく9月のキャンペーンは大切だと思いますので、今後も工夫しながら啓発活動を続けていきたいです。



9/1~21 福岡市赤煉瓦文化館



9/8~11 小倉城

♥小倉城を照らす金色の光は、にこスマ九州のメンバーがゴールドフィルムを照明にひとつひとつ張り付けて実現しました。

大阪城などほかの城も、各地の支援メンバーによる手作業によってゴールドに照らされています。



東京駅と同じ建築家による設計です



福岡県のライトアップ協力

認定NPO法人 にこスマ九州、福岡県、北九州市、福岡市、久留米大学病院、九州がんセンター、九州大学病院

福岡



9/1~9 北九州モノレール

鹿児島



9/9~10  
鹿児島中央駅前観覧車  
「アミュラン」

協力：かごしま難病小児慢性  
特定疾患を支援する会、  
株式会社JR鹿児島シティ、  
鹿児島大学病院

長崎



9/9~11 稲佐山山頂電波塔  
協力：長崎市

佐賀



※長崎と佐賀、どちらにもがんの子どもを守る会  
九州西支部が協力しています

9/9 佐賀メディカルセンタ  
ービル（佐賀県健診・検査  
センター）

協力：公益財団法人 佐賀  
県健康づくり財団



沖縄

## レモネードとエイサーでつながろう 輝く未来へ



9/9 沖縄こどもホスピス予定地

協力：子ども応援団笑びん、沖縄こどもホスピスの  
ようなものプロジェクト、株式会社トータルライフサポ  
ート研究所、沖縄ピースライオンズクラブ、NPO法人  
Mirai Kanai、合同会社hareruya (p1)



♥今年ゴールドセプテンバーキャンペーン初参加の  
沖縄からは、メインイベント用の応援メッセージ写真  
が約70枚集まるなど大きな熱意が届きました。

9月9日のイベントでは子どもたちによるエイサーの  
演舞やレモネードの提供、メッセージ動画の鑑賞会  
が開催されました。

この様子は動画でご覧いただけます。





## ～小児がんを飛ばせ～ 「ゴールドリボンナイター」

主催：ヤクルト球団  
協賛：NPO 法人がんネットワークジャパン (CNJ)



直球を投げ込む小谷侑生さん

9月2日、小児がんの子どもたちを応援する「ゴールドリボンナイター」が、東京ヤクルトスワローズの本拠地：明治神宮野球場（東京都新宿区）で行われました。小児がんの経験者とご家族ら約50人が招待され、球場セレモニーや阪神タイガースとの対戦を楽しみました。

始球式では、小谷侑生さん（中3）が自身の名前「YUKI」（ゆうき）が背面に入れられた55番のユニフォームに身を包み、堂々のストライク球を披露。「まっすぐ投げようだけ思っていた。会場の声援が力になったし、選手たちはいつもこんな声援を受けているのか、とも実感しました」と力強く感想を語りました。

姉妹で選手への花束贈呈を務めた大久保日鞠（ひまり）さん（小3）は、「緊張したけれどお姉ちゃんといっしょだったから安心しました」とにこやか。

ヤクルトの選手たちはこの日ゴールドのリストバンドをつけてプレー。観客席の子どもたちもご家族も「選手たちと一体感を味わえる」と、皆おそろいのリストバンドを喜びながら声援を送っていました。



小児がんを説明する、フリーアナウンサーでCNJ理事の中井美穂さん



### プロスポーツの応援



「テレビより面白い」と観戦を楽しむ皆さん  
※写真はCNJ提供



～ひとに健康を、  
まちに元気を～

GAMBA OSAKA

## 「SDGsmile マッチ」

主催：ガンバ大阪

9月24日、ガンバ大阪はホームのパナソニックスタジアム吹田（吹田市）で開催された浦和レッズ戦を「SDGsmile マッチ」とし、サポーターらと共によりよい未来を実現するためにSDGs（＝持続可能な開発目標：Sustainable Development Goals。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人取り残さないことを誓っている。）紹介イベントを行いました。

その一環として小児がん啓発コーナーが組み込まれ、試合前のミニステージでは宮村能子医師（大阪大学医学部附属病院）、藤崎弘之医師（大阪市立総合医療センター）らが小児がん啓発カラーの「ゴールド」について説明し、治療を終えた子どもたちが学校に戻る際には温かく迎え入れてほしいと話しました。

キックオフ時には試合に招待された子どもたちがフラッグベアラー（選手に先立ってフラッグを持って入場する役）を務め、試合後には半田陸選手とエール交換するなど、特別な時間を味わいました。



啓発に着用させていただいたガンバTシャツ



試合前の啓発ステージ



フラッグベアラー ※左の2枚はガンバ大阪提供



半田陸選手との交流



ご協力をありがとうございました！



Smile Action



スマイルアクションとは…



ゴールドセブンバーキャンペーンの趣旨に賛同し、各地で開催される小児がんの啓発イベント

スマイルアクションメンバー

小児がんの子どもたちとご家族が輝かしい未来を“笑顔”で過ごせるように

協賛：一般財団法人京都仏教会、ハートリンク共済、株式会社村上農園、326(ナカムラミツル)様、ARIS HEARTS (山川亜梨沙)様、FAHome Sound&lights、明治安田生命保険相互会社、(公財)ちば国際コンベンションビューロー、認定NPO法人ミルフィーユ小児がんフロンティアーズ、一般社団法人関西学生アメリカンフットボール連盟、福島県難病支援事業補助金、公益財団法人がんの子どもを守る会、一般社団法人彦根葉削師会、特定認定公益信託日本白血病研究基金、一般財団法人地域医学研究基金

協力団体：公益財団法人がんの子どもを守る会、認定NPO法人ゴールドリボン・ネットワーク、一般社団法人Empower Children、一般社団法人レモネードスタンド普及協会、株式会社毎日新聞社、アフラック生命保険株式会社、認定NPO法人がんネットワークジャパン (CNJ)、特定NPO法人ぶくぶくばーん、一般社団法人旭くん光のプロジェクト、湘南ベルマーレ、ガンバ大阪、フィデリティ投信株式会社、認定NPO法人にこすま九州、認定NPO法人ミルフィーユ小児がんフロンティアーズ、NPO法人ホスピタルフットボール協会、NPO法人ラ・ファミリエ、一般社団法人子どもと家族のQOL研究センター、大阪学院大学、羽衣国際大学、大阪国際大学、くるみ学童クラブ、島根大学総合理工学部、NPO法人RAINBOW、特定非営利活動法人Homika、弘前大学医学部附属病院、小児科子ども・家族の会「ういず」、青森県小児がんの子ども・家族のサポーター「ともしびプラス」、兵庫県立小田高校、聖ヨゼフ学園高等学校、かごしま難病小児慢性、特定疾患を支援する会、調布花火大会実行委員会、長野朝日放送株式会社、早稲田ビジネススクール、京阪ホテルズ&リゾーツ株式会社、アルソック新潟警備保障

ライトアップ協力：株式会社さっぽろテレビ塔、株式会社仙台放送、佐渡市、さいたまスーパーアリーナ、千葉ポートタワー、神奈川県、横浜市、泉陽興業株式会社、リストプロパティーズ株式会社、新港ふ頭客船ターミナル株式会社、アニヴェルセルみなどみらい横浜、認定NPO法人横浜子どもホスピス うみとそらのおうち、中部電力 MIRAI TOWER、オアシス21、東寺(教王護国寺)、大阪府、大阪市、阪神高速道路株式会社、一心寺文化事業財団、広島市、大洲市、愛媛県、松山市、四国八十八カ所51番石手寺、愛媛大学医学部附属病院、高松シンボルタワー管理協議会、東北電力福島支店、東京都立小児総合医療センター、北九州市、福岡市、公益財団法人佐賀県健康づくり財団、長崎市、株式会社JR鹿児島シティ、東武タワースカイツリー株式会社、小田原市、平塚市、松田町、江ノ島電鉄株式会社、神奈川県立子ども医療センター、島根県、松江市、出雲市、出雲大社、島根大学、坂井市、北九州モノレール、津嘉山の社ヒルトトップカシタ、彦根市、弘前市、宮津市、神戸市、聖ヨゼフ学園、岡山県、岡山市、徳島県、埼玉スタジアム2002公園マネジメントネットワーク、一般社団法人山口県国際総合センター海峽ゆめタワー、佐渡市、関西電力株式会社、大阪市建設局、沖縄子どもホスピスのようなものプロジェクト、株式会社トータルライフサポート研究所、沖縄ピースライオンズクラブ、NPO法人 MiraiKanai、合同会社hareruya

協力病院：北海道大学病院、弘前大学医学部附属病院、宮城県立子ども病院、福島県立医科大学附属病院、千葉県子ども病院、千葉大学附属病院、成田赤十字病院、新潟大学医学部附属病院、埼玉県立小児医療センター、国立成育医療研究センター、東京都立小児総合医療センター、神奈川県立子ども医療センター、横浜市立大学附属病院、京都府立医科大学附属病院、大阪大学医学部附属病院、大阪市立総合医療センター、島根大学医学部附属病院、広島大学病院、山口大学医学部附属病院、愛媛大学医学部附属病院、愛媛県立中央病院、松山赤十字病院、今治市医師会市民病院、香川大学医学部附属病院、久留米大学病院、九州がんセンター、鹿児島大学病院、倉敷中央病院、岡山医療センター、岡山大学病院、四国こどもとおとなの医療センター、九州大学病院



## ご寄付のお願い



### 小児がんの子どもたちのサポートにご協力ください

1 カ月あたり 1000 円、年間 12000 円のご寄付で、  
がんの子ども 1 人の治療支援が可能になります。

「未来の新治療開発」(バイオバンクへの細胞保存)、「正確な診断」(中央診断システムの維持)、「大人になるまで見届ける」(長期フォローアップ手帳の確実な配布と運用)。そのため、小児がんの患者さん 1 人に年間約 12000 円が必要です。

JCCG は、毎年新たに発症する 2500 人の子どもの命を守ろうと努力しています。

一人でも多くの子どもたちに、「治った！」  
という明るい未来をプレゼントするために、  
どうかご協力をお願い申し上げます。



ご寄付はこちらへお願いします

郵便局・ゆうちょ銀行 郵便振り込み  
口座記号 00850-5 口座番号 153506  
加入者名 NPO JCCG

JCCG HP より、クレジットカード寄付も可能です

JCCG ホームページ



ご寄付のお願い

最善の治療体制を構築し、  
最良の治療法を開発するために。

小児がんの種類は多く、まれなものが多く、日本では小児がん治療を研究する専門家が少ない、治療費や薬品にあてられる予算も欧米に比べて少ないのが現状です。  
最善の治療体制を構築し、最良の治療法を開発するために、皆様のご支援を必要としています。小児がんの子どもたちのために、ぜひご協力をお願いいたします。

ご寄付について詳しくはこちら



JCCG 事務局

〒460-0003 名古屋市中区錦 3 丁目 6 番 35 号 8 階

TEL : 052-734-2182 FAX : 052-734-2183 E-mail : friend@jccg.jp



Special Thanks!

イラスト：かーゆーこ (<http://katoyuko.sakura.ne.jp/>) コピーライティング：石黒 佐和子  
JCCG 自動販売機デザイン：有限会社 Sadatomo Kawamura Design

JCCG ニュースレターは、ご寄付をいただいた皆様や以下の支援団体様のご協力のおかげで発行されております

